

2024 年度 第 2 回神戸市障害者施策推進協議会 議事要旨

日時：2025 年 1 月 29 日（水）10:00～11:30

場所：神戸市役所 1 号館 14 階 大会議室

○報告

- (1) 令和 5 年度神戸市における障害者虐待の状況および対応について（資料 2）
- (2) 神戸市手話に関する施策の推進方針（第 2 次）について（資料 3）
- (3) 神戸市における複合的な相談支援の取り組み（資料 4）

→事務局より説明

【主な意見】

- (1) 令和 5 年度神戸市における障害者虐待の状況および対応について（資料 2）
 - ・ 障害者福祉施設従事者等による虐待は、発生した事業種別（グループホーム、生活介護等）の情報も活用して事業所へ注意喚起をしてもらいたい。また、可能であれば発生した要因（職員のスキル不足、倫理観の欠如、組織風土の問題等）も今後の報告に含めてもらいたい。
 - ・ 障害者福祉施設従事者等から利用者への虐待は、報酬単価の低さも要因のひとつとして考えられる。報酬単価は徐々に改善されつつあるものの、引き続き厚生労働省に神戸市から単価の引き上げを要望してもらいたい。
- (2) 神戸市手話に関する施策の推進方針（第 2 次）について（資料 3）
 - ・ 神戸市みんなの手話言語条例が制定されて今年でちょうど 10 年になる。これを機に、本協議会の場でも手話言語懇談会の意見をさらに取り入れるとともに、当事者の声を聞く場を 1 年に 1 回は作ってもらいたい。
 - ・ 手話は聴覚障がいの方にとっては画期的なものだが、聴覚・視覚の両方に障がいのある盲ろう者の言語保障についても今後考えてもらいたい。
 - ・ 手話通訳・要約筆記の派遣費用は主催者負担が原則だが、障害者団体が開催する行事への派遣費用に関しては行政が補助するような仕組みを今後検討してもらいたい。
 - ・ 資料 6 ページ項番 3 に記載の「ろう者が日常生活や社会生活の中で」の後に、『災害時などの緊急時も含めて』という文言の追加を検討してもらいたい。
 - ・ 子供の頃に障がいのある方との交流があることで障がい理解がより深まるため、小中学校で当事者の声を聞いてもらう機会を積極的に設けてもらいたい。
- (3) 神戸市における複合的な相談支援の取り組み（資料 4）
 - ・ こども・若者ケアラー相談支援窓口に関して、当事者からの相談件数が少ないのは周知が行き届いていないことが理由のひとつとして考えられる。各学校に配置されているスクールカウンセラーも含め、市全体を挙げた啓発に取り組んでももらいたい。
 - ・ 学校での問題は、生徒や親御さんに障がいがある場合もあるため、教師や地域住民も含めて情報をキャッチできるよう啓発に取り組んでももらいたい。
 - ・ 社会には家族介護は自己責任という風潮があり、自身に過度な負担があることに気づかない子供も多くいる。行政としてはそういった状態を改善するという視点でも取り組んでももらいたい。